

# KPIの設定・把握

- 「患者のための薬局ビジョン」に基づき設定する医薬分業の質を評価できる指標の進捗状況については、以下のとおり。

指標		「患者のための薬局ビジョン」において示すかかりつけ薬剤師としての役割を發揮できる薬剤師を配置している薬局数(注1)	重複投薬・相互作用防止に係る調剤報酬(重複投薬・相互作用防止加算・処方箋変更あり)の算定件数(注1)	各都道府県の、一人の患者が同一期間に3つ以上の医療機関から同じ成分の処方を受けている件数(注1)	調剤報酬における在宅患者訪問薬剤管理指導料、介護報酬における居宅療養管理指導費、介護予防居宅療養管理指導費の算定件数(注1)	地域包括ケアシステムにおいて過去1年間に平均月1回以上医師等と連携して在宅業務を実施している薬局数(注2)
目標値		2022年度までに60%	2021年度までに2017年度と比べ20%増	見える化	2021年度までに2017年度と比べ40%増	2022年度までに60%
進捗	2017年度	—(注3)	—(329,216件)	公表済	—(9,427,974件)	—(注3)
	2019年度	67.5%	17.3%(386,178件)	公表済	33.1%(12,545,021件)	29.8%
	2020年度	75.7%	▲9.9%(296,548件) (注4)	集計中	集計中	33.1%

注1 これらに加え、経済・財政再生アクション・プログラム2016(当初)においては、「かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の算定件数」、「後発医薬品のある先発医薬品及び後発医薬品を分母とした後発医薬品の数量シェア」が指標として設定されていた。

注2 新経済・財政再生計画 改革工程表2018から設定された。

注3 2019年分から把握

注4 コロナの影響により全処方箋数が減

## 薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループ

### 目的

- 高齢化に伴う本格的な人口減を迎えつつある中で、地域の薬剤師の人的資源を活用することは、国民の医療の質の向上、健康増進、地域医療体制の確保にとって重要。
- 「患者のための薬局ビジョン」で打ち出された①『「門前から」から「かかりつけ」、そして「地域へ」』、②「対物業務から対人業務へ」などを基本的な考え方として、地域で活動する医療職種としての役割を強化する。また、電子処方箋の導入、オンライン化の推進、マイナポータルを通じた各種医療情報の共有、調剤機器の高度化等の新たな技術が登場する中で、これらの技術等を活用した将来の薬局薬剤師の業務の在り方や必要な対策を検討する。
- さらに、地域における薬剤師サービスの提供拠点としての薬局の在り方についても議論する。

### 検討項目

- ①対人業務の充実
- ②薬局薬剤師のDX
- ③医療安全を前提とした対物業務の効率化
- ④地域における薬剤師サービスの提供 等

### スケジュール

- 令和4年2月～6月までの間に6回程度開催
- 令和4年夏を目途に議論のとりまとめを予定

### 構成員一覧

- |        |  |
|--------|--|
| ◎赤池 昭紀 | 和歌山県立医科大学薬学部教授                             |
| 猪口 雄二  | 公益社団法人日本医師会副会長                             |
| ○印南 一路 | 慶應義塾大学総合政策学部教授                             |
| 佐々木 淳  | 医療法人社団悠翔会理事長・診療部長                          |
| 関口 周吉  | 一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会副会長                   |
| 孫 尚孝   | 株式会社 ファーマシイ医療連携部部長                         |
| 出井 京子  | 株式会社 NTTドコモビジネスクリエーション部<br>ヘルスケアビジネス推進室 室長 |
| 橋場 元   | 公益社団法人日本薬剤師会常務理事                           |
| 林 昌洋   | 一般社団法人日本病院薬剤師会副会長                          |
| 藤井 江美  | 一般社団法人日本保険薬局協会常務理事                         |
| 山口 育子  | 認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長                |

◎主査 ○主査代理

(五十音順・敬称略)

# 薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループ 今後のスケジュール

○ ワーキンググループ（WG）では令和4年2月～6月に4つのテーマ（注1）に分けて議論。WGの議論、論点を整理し、同年7月に検討会に報告することを目指す。

（注1）4つのテーマ：（1）対人業務の充実、（2）薬局薬剤師のDX、（3）医療安全を前提とした対物業務の効率化、（4）地域における薬剤師サービスの提供、を想定

## WG等の開催予定月と検討内容（予定）

（注2）検討会：薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会

開催予定月		検討会 <sup>注2</sup> / WG		検討内容（予定）
令和4年	1月	第11回検討会(1/20)		WGを開催することを開催確認
	2月～6月		第1回WG(2/14)	（1）対人業務の充実
			第2回WG(3/10)	（2）薬局薬剤師のDX
			第3回WG	（3）医療安全を前提とした対物業務の効率化
			第4回WG	（4）地域における薬剤師サービスの提供
			第5回WG	これまでの議論の整理①
			第6回WG	これまでの議論の整理②
	7月	第12回検討会		WGの議論の整理を受けて方向性の検討 ※必要に応じて8月以降も開催

※議論の状況等に応じて、検討内容及び開催頻度は適宜変更する。